行政報告

Administrative Report

令和6年11月市議会定例会が11月26日に開会され、市長が行政報告を行いました。このページでは、その要旨を紹介します。なお全文は市ホームページで紹介しています。

市長から

11月2日、市制施行20周年を記念して、ゆめトピア長船で瀬戸内市誕生20周年記念式典を開催しました。

式典には、国会議員、県議会議員、県内の市長、議長をはじめ、友好交流都市である大韓民国密陽（ミリャン）市長や姉妹都市である対馬市長、瀬戸内市の発展に尽力いただいた人など市内外から約400人に参加いただきました。

併せて、令和6年度の市政の各分野で功労のあった人、善行のあった人の表彰や、記念アトラクションとして「市民の想いが瀬戸内市を動かしていく」というメッセージが込められた記念映像の上映、合唱団の歌とせとうちPR大使・馬場桜佑（おうすけ）さんによるステージ演奏も行われました。

また、中学生・高校生と「未来をつくる私たちの想い」をテーマにしたトークセッションを行い、地域に対するそれぞれの想いや将来に向けた決意表明が行われました。

20周年という節目の年を一緒に祝っていただいたすべての皆さんに改めて感謝し、今後も市民の皆さんの力添えをいただきながら、次代を担う世代が「瀬戸内市で暮らしたい、暮らし続けたい」と思えるまちづくりを推進していきます。

総合防災訓練の実施

11月17日に、長船中学校を会場として、水害を想定した総合防災訓練を実施しました。実際の避難手順や安全確保のための行動を確認し、万一の事態が起きた場合でも冷静に対処できるよう、地域住民の避難訓練、消防本部、消防団などによる避難誘導や救助訓練を行いました。

体育館では、国府小学校区の皆さんが作成した避難所図面を使って避難所運営訓練を行い、住民主体の避難所運営を円滑かつ適切に実施できるようにするためのスキルと知識の習得に取り組みました。

参加者からは「避難所のレイアウトの仕方や注意しなければならないことがよく理解でき、備蓄品の準備など自助の大切さを学んだ」などの声が聞かれました。

今後も、災害に強い地域づくりを進めるため、自治会または学校区などを単位とした自主防災組織の結成を促進するとともに、地域における防災訓練などを支援することで、市民一人一人の防災意識が高められるよう進めていきます。

すくすくチャイルドサポート事業助成対象用品の拡充

子育て世帯の経済的負担の軽減および子どもの健やかな成長の支援を目的に実施している、すくすくチャイルドサポート事業について、11月1日からこれまでの助成対象9品目に加え、離乳食関連用品、歯磨き関連用品など19品目を助成対象に追加します。

今後も、当事業をはじめとした子育て施策の充実に努めます。

アイリスオーヤマ株式会社との立地協定および包括連携協定の締結

11月14日に、長船町土師の第2宮下産業団地への企業誘致を進めていたアイリスオーヤマ株式会社と、正式に立地協定を締結しました。

同社は、当地において令和8年に物流倉庫を稼働させ、令和11年にはパックご飯の製造を開始する予定です。今後、地域経済の活性化を図るため、特に雇用の創出や物資の地元調達など連携・協力していきます。

また、同社と相互の資源を活用した連携を図り、地域社会の発展や課題解決、人材の育成に寄与し、市民サービスの向上や地域の活性化を図ることを目的として、同日、包括連携協定を締結しました。

今後、同社の持つ見識を産業振興の分野だけでなく、防災・減災に関すること、持続可能なまちづくりに関することなどで取り入れ、市民サービスの向上や地域の活性化につなげます。

不登校の児童生徒への対応

10月31日に、令和5年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について、文部科学省から通知がありました。国公立、私立の小・中学校の不登校児童生徒数、学校内外で相談を受けていない児童生徒数、30日以上欠席している児童生徒数は過去最多を更新しました。

市の状況は、小学校では過去最多、中学校では微増という結果でした。

市では、令和4年度の調査結果とともに出された緊急対策を受け、「不登校の児童生徒全ての学びの場の確保」や「心の小さなSOSの早期発見」について、対策を講じているところです。

教育支援センターでは、のぞみ教室で心の休養と安心して過ごせる居場所づくりを進め、社会的自立を目指して教育相談室で電話や来所、家庭訪問などによる相談活動や個別支援を行っています。

しかし、今年度の不登校児童生徒の出現率は、昨年度と比較して小・中学校ともに微増しています。引き続き、学校と関係機関などが積極的に連携し、組織的な対応を行います。

さらに、児童生徒が不登校になったとき、将来の瀬戸内市を担う子どもたちが社会的に自立できるよう、保護者も含めて支える体制づくりに真摯に取り組みます。

ごみ減量化の取り組み

ごみの減量化・資源化、ごみ処理のあり方などを検討することを目的として、今年度1回目となる瀬戸内市循環型社会づくり等推進検討委員会を10月1日に開催しました。

人口が減少傾向にある一方で、ごみ処理施設のメンテナンス費用や燃料費の高騰など、ごみ処理に係る費用が増加傾向にある現状を踏まえた上で、ごみ減量を更に推進するための施策などを、来年度に向けて検討します。

法改正によりプラスチック使用製品廃棄物の分別収集が自治体の努力義務となったことから、既に分別収集しているプラスチック製容器包装に加えて、その他のプラスチック使用製品を一括回収するための仕組みづくりを、来年度に向けて検討していきます。

分別・資源化できる品目を更に増やすことにより、「ごみ減量30％」の目標達成に向けた取り組みを推進します。

図書館の実利用率向上に向けて

今年度、協働提案事業として「瀬戸内市立図書館友の会せとうち・もみわフレンズ」と「NPO法人みんなの劇場・おかやま」の2団体と協力し、図書館の実利用率向上に取り組んでいます。

10月には、図書館の開館時間を延長し、コーヒーの淹れ方などのセミナーや、落語家を招いた、大人と子どもが一緒に楽しめる落語会を開催しました。

これらのイベントの中で、新たに作成した図書館のパンフレットを配布し、イベントに関連する資料の展示や紹介を行うことで、これまで図書館を利用していなかった人にも図書館の魅力を伝え、多様な学びの場として認識してもらう機会となりました。

これからも、利用者層の拡大を図るとともに、利用者のニーズにこたえる魅力的な図書館となるよう取り組んでいきます。